

平成20年度 学校評価シート（高知県立高知江の口養護学校高知大学医学部附属病院分校）

平成21年3月11日

1 目指す学校像

- 病気と闘う子どもを支え、子どもの伸びようとする気持ちを大切にしている学校。
- 自ら楽しく学ぶ子ども、おだやかに自己表現できる子ども。
- 児童生徒愛に満ち、使命感に溢れた、実践力のある教職員。

2 本年度の教育目標

- 1 病気の子どもが自分の状況に対し、積極的に対処し、自己管理能力を高めていくための指導のあり方を探る。
- 2 教材研究や研究授業を通して教員の指導力の向上を図り、基礎学力の向上をめざす。
- 3 病院、家庭、前籍校と連携を密にして児童生徒理解を深め、学習の遅れ、行動面・情緒面などの課題の改善に向けた指導を行う。

3 評価

**評価の基準**  
 A：設定した目標を十分達成できた。  
 B：設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。  
 C：設定した目標に対し、成果が不十分であり、課題が残った。  
 D：設定した目標に対し、ほとんど達成できなかった。

**評価者**  
 ○病院関係者 3名

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	外部評価	今後の課題	
1 自己管理能力を高めていくための指導のあり方を探る	・自己管理能力を高める指導については、病名の告知や保護者の思い、主治医の方針等が複雑に絡む内容で、学校独自の取り組みに困難さを感じるが多かった。	・児童生徒の不安を緩和し、自分の病気と向き合う気持ちを育てる取り組みを推進する。	・こまめに病棟を訪問し、児童生徒や病院スタッフ、保護者と意思疎通や共通認識を図る。 ・自立活動の時間の指導において子どもと向き合う時間を充実させ、病気に対する不安を軽減する。	体調が思わしくないとき以外は、日中や放課後に頻繁に病室を訪問できた。特に精神科とは1～2Wごとに情報交換を実施した。自立活動では複数の生徒がいる場合は十分に個々のニーズに迫ることができなかった。	B	学習面だけでなく、病棟での日常生活面についてもきめ細かく支援しており、本年度の重点目標については達成できていると感じる。自己評価は「B」だが「A」が妥当である。評価の手立てが漠然としている。第三者が評価しやすい評価指標を工夫すべきである。	自立活動の時間の指導、放課後等を含め児童生徒の一日の生活すべてを通して、子どもの内面にアプローチしていくことができる教員の資質の向上が必要である。
2 基礎学力の向上	・H19年度の学校評価アンケートや保護者の感想では、学習指導に対しては概ね満足している回答が多く、今後さらに満足度を上げながら、こうした状況を維持していくことが課題である。	・前籍校での学習内容、学習進度等の状況を的確に把握し、学習空白を補うとともに、基礎学力のいっそうの定着を図る。	・定期的に学習内容の定着の確認を行う。 ・児童生徒の実態に即した教材・教具の開発と活用を行う。 ・パソコン等の機器の活用や視覚的な支援を充実させた指導を行う。	単元、作品ごとに確認のテストを実施し、基礎学力の向上に努めたが、子どもの実態によっては十分な定着が図れないケースもあった。児童の実態に即した教材教具も数多く開発し、日々の実践の中で活用できた。	B	個々の児童生徒の状況に合わせた学習を行っているが、障害の重い子どもへの支援機器を活用した学習、情報機器を活用した学習など、更に工夫できる余地はあるのではないかと。自己評価「B」は妥当である。	特に心理面への配慮が必要な児童生徒の指導方法、教育内容の在り方について実践を蓄積する必要がある。病棟内での機器の活用や視覚的な支援の在り方について取り組みを推進する。
3 病院、家庭、前籍校等との連携	・保護者や病院に対し、分校についての理解啓発が十分ではなかった。 ・学校、病院、家庭との連携やお互いの役割の確認が十分ではなかった。	・スムーズな前籍校復帰に向けての取り組みを推進する。 ・病院内にある学校の役割について研究を行う。 ・中断している医教連絡協議会を再開し連携の強化を図る。	・児童生徒の実態や必要性を吟味し、前籍校復帰に向けて学校、病院、前籍校、保護者、本人等による3(4)者会を機動的に開催する。 ・本年度の校内研究のテーマとして研究を推進する。 ・医教連絡協議会の再開に向けて協力を依頼する。	保護者の希望により実施を見送った2件を除いて4つのケースについて3(4)者会を実施し、円滑な前籍校復帰につなげることができた。医教連絡協議会は病院側の協力により年2回開催することができた。	A	退院が急に決定するケースが多い中で、退院に向けて関係者を集めての3(4)者会を迅速に持つことができています。アンケート結果を見ても、保護者の満足度が高い。自己評価「A」は妥当である。	病院からの外部評価を次年度の学校運営の改善に確実に反映し、病院との連携を更に強化する。前籍校復帰後の小中学校等への追跡調査の内容を見直し、前籍校との連携の在り方を改善する。